

平成 28 年 5 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370209

研究課題名(和文) 『古状揃』の総合的研究

研究課題名(英文) General researches on Kojou-zoroe

研究代表者

長島 弘明 (NAGASHIMA, HIROAKI)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：00138182

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代に数多く出版された『古状揃』を様々な観点から検討し、次のような知見を得た。『古状揃』は、書道の教科書、文語文の教科書であるだけでなく、江戸時代の若年層の初学において、歴史や歴史文学へ彼らを誘う、大変重要な本であることが確認できた。『古状揃』は、江戸時代の人々が最初に目にする文学的なテキストであり、文学入門書であったと言っても過言ではない。

研究成果の概要(英文)：Kojou-zoroe, the collection of old letters, published in the Edo era, was examined from various viewpoints, and the following new knowledge was acquired. Kojou-zoroe was not only a textbook of the calligraphy, the textbook of literary expressions, but also a book important at all which tempted young students of the Edo era into the history and history literature. Kojou-zoroe was the literal text which people of the Edo era see first and is not exaggeration even if I say that it was a literature primer.

研究分野：日本近世文学

キーワード：古状揃 歴史文学

## 1. 研究開始当初の背景

『古状揃』は、広義の「往来物」の一種である。狭義の「往来物」は、往復書簡の形式をとって、手紙に使う書簡用語や、日常生活に必要な様々な語彙を習得するための教科書であり、また漢字の行書を学ばせるための習字の手本であるが、広義には、例えば『実語教・童子教』や『女大学』等の、同種の初学用の教科書的なものの総称として使われる。源義経や豊臣秀頼らの歴史的人物が書いたという手紙を集めた『古状揃』は、その広義の「往来物」の中でもっとも文学的なテキストであり、江戸時代の子供が最初に文学に接するのは、この教科書である『古状揃』との出会いを通じてであるといっても過言ではない。この『古状揃』を通じて遠い昔の歴史に思いを馳せ、軍記物語の中の英雄の面影を心に思い描くのである。

しかしながら、従来の「往来物」研究は、石川謙「日本教科書大系 往来編」(全17巻)、石川松太郎「往来物大系」(全100巻)、小泉吉永「稀覯往来物集成」(全32巻)など、基本となる書の集成はある程度の進捗を見、また小泉吉永「往来物解題辞典」等、「往来物」全体の解題的把握には相当の成果が挙げられているものの、『古状揃』をことさらに取り上げて深く追究した研究は皆無と言ってよい。これはすなわち従来の研究が、「往来物」の読み書きの教科書的側面、あるいは道德の教科書的側面を第一に取り上げ、歴史への興味、文学への興味をかき立てる案内書としての側面を軽んじてきたことの結果である。

申請者の長島は、平成19年度～21年度の科学研究費補助金基盤研究(C)「初期読本の総合的研究」において、初期読本成立の背景の一つとして『古状揃』に着目し、その諸版の整理をある程度まで進めるとともに、「腰越状」「義経含状」などの義経関係の創作的書簡が、歴史の空白を小説的な興味によって埋めるといふ、初期読本と共通の特質を持っていることを明らかにした。

今回の研究は、それを踏まえ、錯綜している『古状揃』の諸本を網羅的に調査し、作品

としての成立や諸版の順序を考察して明らかにする。中には、通常多く収められている「今川状」「腰越状」「義経含状」「熊谷状」「経盛返状」「弁慶状」「手習状」「曾我状」「大坂状」等々の他に、川中島合戦などの折の書簡を収める変種もあり、精査を加えたい。また近世に多く出版された歴史書や、歴史小説類と比較して、歴史書とも歴史小説とも微妙に異なる『古状揃』の意味を明らかにしたい。

## 2. 研究の目的

3年の研究期間の間に、以下の諸点を明らかにすることを目的とした。

(1)『古状揃』の諸版の精査により、その原形と成立時期を明らかにする。近世前期の写本も資料収集の範囲に加えたい。成立に当たって、他の往来物からどのような影響があったのかも明らかにする。

(2)『古状揃』に収録されている「腰越状」「義経含状」等の個々の典拠を明らかにし、またそれぞれの版で微妙に異なっている各書簡の本文を校訂し、可能ならば校訂本文を作る。

(3)『古状揃講釈』『古状揃精注鈔』等の江戸時代の注釈書を広く参照し、各書簡について詳注を施す。単なる語注ではなく、例えば典拠との比較によって、典拠をどのような意図のもとに、どう変えているのかという点などについても触れる。

(4)「往来物」全体の中での『古状揃』の位置を再検討する。「往来物」を主として内容から「語彙」「消息」「地理」「産業」等に分け、『古状揃』を「歴史」に分類することがあるが、文学性の有無という観点から、これらの分類を再編成する。

(5)江戸時代には、『古状揃』に収められている創作的書簡と直接・間接の関係がある、歴史書や歴史小説が多数刊行されている。例えば、「腰越状」「義経含状」や、その筆者とされる源義経については、『吾妻鏡』等の史書、『源平盛衰記』『義経記』等の軍記、『平家物語評判秘伝抄』『義経記評判』等の評論注釈書、『盛長私記』等の偽書などにしばしば記載されるし、さらにもう少しはっきりと文学化・虚構化された義経が登場するものも、幸若舞曲や浮世草子・読本等の小説類、浄瑠璃・歌舞伎に数多くある。史実に近い義経像

から、完全に虚構化された義経像までかなりの幅があるが、この『古状揃』が示唆する義経像の意義を明らかにする。

(6) 版本の『古状揃』を写したものが一定数残っており、その書写者の住所や年齢を知ることができるもの、また感想が書き込まれたものもある。それらを手がかりに、江戸時代における『古状揃』の享受の実態を明らかにする。

### 3. 研究の方法

3年間の具体的な研究方法を、年度順に掲げる。(1)(2)等の項目番号は、通し番号とした。

(平成25年度)

研究の初年度に当たる平成25年度は、資料調査と資料収集を中心として、次のように研究を進めた。

(1)『古状揃』の諸写本・諸版を網羅的に調査・収集し、系統別に分類する。その上で、『古状揃』の原初の形態とその成立時期を検討した。

(2)『古状揃』以外の、歴史的要素を持った「往来物」を取り上げ、『古状揃』とどのような共通点があるか、『古状揃』とどのような影響関係があるか、検討した。

(3)『古状揃』収録の「腰越状」「義経含状」等々の個々の書簡の典拠を明らかにした。また、それぞれの版で微妙に異なっている本文を校訂した。

(平成26年度)

研究の第2年次に当たる本年度は、初年度の計画のうち、資料の量が多く、引き続き作業が必要な『古状揃』諸版の調査、「往来物」諸作の調査は継続し、その他、新たに開始した研究は次の通りである。

(4)『古状揃精注鈔』をはじめとする江戸時代の諸注釈書を参照しながら、典拠をどのように改変しているかという点に留意しつつ部分的に詳しい注釈を試みた。

(5)『古状揃』は、「往来物」を「語彙」「消息」「歴史」「地理」「産業」等に分別した中で、通常は「歴史」の区分に分類されるが、文学性・虚構性の強弱を基準とした「往来物」の新しい分類の可能性を試みた。

(平成27年度)

第3年次で最終年に当たる本年は、以下のように研究を進めた。

(6)『古状揃』所収書簡と、ゆるやかではあるが関係を有する歴史書や歴史小説を精査し、例えば『古状揃』が示唆する義経像が、歴史書や歴史小説に登場する義経像とどの

ような関係にあるか明らかにした。

(7)書写の練習として写された『古状揃』の写本を調査し、その書写者の年齢、書き込まれた感想等に特に注意しながら、江戸時代における『古状揃』の享受の実態を部分的に明らかにした。

### 4. 研究成果

(1)諸図書館・文庫に収蔵されるものをはじめ、300部を超える『古状揃』の版本・写本を調査した。その結果、「腰越状」「大坂状」等の、収録される古状の組み合わせ、版元、上欄の内容(本文とは別の古状の場合もあり、日常の実用的知識・教訓などの場合も様々)等、実に多様であることを改めて確認した。微細な相違まで問題にすれば、恐らく『古状揃』の版種は、最終的には200を超えるのではなからうか。それぞれの版の、古状の本文間の異同はわずかであり、本文の検討から系統分類を行うことは甚だ難しい。注釈書の場合は、注の内容を比較し、その影響関係を検討することにより、成立の先後、注釈書としての系統分類をすることはある程度まで可能である。

(2)『古状揃』の小説性がどこから由来するか考察し、次のような結論を得た。『古状揃』以外の往来物にも、歴史的要素や、多少の小説的要素を持ったものがあるが、『古状揃』がそれらと違うのは、『古状揃』中の書状の発信人がいずれも歴史上の人物であり、その人物を含む「世界」がすでに先行する文学作品等によって確立されている点である。具体的に言えば、『古状揃』中の「腰越状」は源義経が書いたという体裁をとるが、それが『吾妻鏡』や幸若舞『腰越』等に収録されているということに加え、『平家物語』や『源平盛衰記』『義経記』等によって確立されている源平の「世界」にしっかりと組み込まれているという点である。たった1通の手紙が強い小説的な興味をかきたてるのは、この「腰越状」の背後に確固とした源平の「世界」があり、それがストーリー性を補完しているからである。

(3)『古状揃精注鈔』や『古状揃余師』をはじめとする江戸時代の注釈書を検討し、それらの注釈書が、当該書簡の歴史的な背景に関して、予想以上に多くの軍記や史書、野史の類に目を通し、解説の参考にしていることを確認した。併せて、語注にも同様に多くの書が参考にされていることも確認した。また、『古状揃』自体が初学の者に対して教科書的な意味合いを持つものであるため、その注釈書は一層初学者に丁寧な配慮がされていること、例えば、書簡原文の漢文体を書き下し文にすることはもちろん、その書き下しには、通例は省かれる置き字までもわざわざ示してあることなどを確認した。

の世界、ソウル大学国際講演会、2013年  
10月30日、ソウル市（韓国）

〔図書〕(計0件)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

長島 弘明 (NAGASHIMA HIROAKI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：00138182

(4) 「往来物」諸作を「語彙」「消息」「歴史」「地理」「産業」等に分別した中で、通常『古状揃』は「歴史」に区分されるが、『古状揃』諸本をある程度まで集めて、それぞれの内容について検討した結果、『古状揃』のうち上欄部分に国名や漢語、歳時等の用語集的なものがあるものは、「語彙」「地理」等の内容にもわたるものであること、むしろそういう『古状揃』は小百科事典の趣があることを確認した。

(5) 『古状揃』所収書簡と、ゆるやかではあるが関係を有する歴史書や歴史小説を精査した結果、例えば、『古状揃』に出てくる熊谷直実・平経盛・弁慶らの人物イメージは、『平家物語』『源平盛衰記』等の古典に出る人物像の特徴をより肥大化・具象化したものであり、また、『古状揃』以後の読本や時代物浮世草子、時代物浄瑠璃で描かれる同じ人物は、『古状揃』のイメージを前提にしていることが多いことが明らかになった。

(6) 書写の練習として写された『古状揃』の写本を調査した結果、その書写者は、江戸等の大都市の住人のみならず、全国のあちこちの村落に及ぶこと、また必ずしも寺子屋での教育をきっかけに書写されたものに限らないこと、書写者は十代前半の者だけではなく、かなり年齢の行った者が書写した事例もあり、様々な地域、様々な階層、様々な年齢層に享受されていたこと、等々が明らかになった。

(7) 『古状揃』は、書道の教科書、文語文の教科書であるだけでなく、江戸時代の若年層の初学において、歴史や歴史文学へ彼らを誘う、大変重要な本であることが確認できた。『古状揃』は、江戸時代の人々が最初に目にする文学的なテキストであり、文学入門書であったと言っても過言ではない。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

長島弘明、文学ジャンルのヒエラルキーと本文の流動 江戸時代小説を起点として、コロンビア大学国際ワークショップ「日本文学史再考」、2016年3月11日、ニューヨーク市（アメリカ）

長島弘明、東京大学における日本文学教育、韓国日本言語文化学会 2013年度秋季国際学術大会招待講演（サイバー韓国外国語大学校会場）、2013年11月9日、ソウル市（韓国）

長島弘明、物語文学のゆくえ 『雨月物語』